

## 『あなたは何をしたのか』(ヨハネの福音書 18章 28-40節) 2023.2.26.

<はじめに> イエスが捕らえられた夜も明けようとしていました。イエスの身柄は大祭司カヤパのもとからローマ総督官邸へと移されます(28)。イエスとイエスを訴えるユダヤ人指導者たち、ローマ総督ピラトの三者が絡み合いながら、十字架の一日が動き始めます。

### I イエスを訴える者たち(28-30)

#### ①ローマへの告発の理由

彼ら(28)はユダヤ指導者の祭司長カヤパと議員たちです。彼らはイエスを独自に取り調べ、自らキリストとの告白が神への冒瀆として死罪相当と断じていました(マタイ 26:57-68)。ローマはユダヤ人に死刑執行を禁じていた(31)ので、総督ピラトにその執行を迫ります。

#### ②この人が悪い

彼らはピラトを死刑執行者として利用しようとしていました。官邸に入らずに汚れを避け、神を冒瀆したと見えたイエスへ憎しみ・怒り・殺意を抱いたことも、律法の前での正しさを追求したからです。しかし、律法は「殺してはならない」とも厳命しています。

#### ③自分は悪くない?

他人の罪を見つけて責めるとき、自分は正しいと思ひ込む傾向があります。自分と他人で尺度が変わるざるさが、正しさの中に潜んでいることに目を向けられません。これに気付くには、神のみことばの光に自らが照らされることしかありません。

### II イエスを調べるピラト(33-40)

#### ①関わりたくない

ユダヤ人からの告発を受けたピラトは、訴えを差し戻そうとしますが押し切られます(31)。彼はユダヤ人同士の諍いに興味はなかったのですが、渋々取り調べにかかります。彼のイエスへの尋問(33,35,37,38)はローマへの反逆者を調べる定型句です。

#### ②何の罪も認めない(38)

数々の反逆者を取り調べて来たピラトから見て、イエスは明らかに異彩を放っていました。彼の国はこの世のものではなく(36)、真理について証しするために来た(37)との返事に理解も及ばず、ただ「私はあの人に何の罪も認めない」(38)とユダヤ人に告げます。

#### ③妥協の提案(39-40)

祭りの赦免でイエスを釈放しようと提案し、ユダヤ人の怒りを収めさせようとする妥協です。しかし、ユダヤ人は反逆者・強盗のバラバを要求します。それは無罪のイエスを処刑することに繋がります。彼は正義を貫くことができませんでした。人を恐れたからです。

### III 取り調べを受けるイエス(33-40)

#### ①御国の王(36)

逮捕後、イエスは人々に連れ回されますが、取り調べを受ける態度は堂々としています。ピラトの尋問(33,35,37)への応答(34,36,37)でご自分の立場と役割を証言されています。地上的な王国とは異なる、神の御国を治める王として凜として立たれます。

#### ②真理に属する者(37)

ピラトも「真理とは何なのか」(38)と問うています。揺るがない真理・真実は神であるキリスト(14:6)であり、真理に属する者は、イエスの声・ことばに聞き従います。対照的にユダヤ人指導者もピラトも自分の正しさに拠り頼み、結果的に揺れ動いています。

#### ③ことばが成就するため(32)

十字架刑はローマの処刑方法です。イエスはかつて自分が十字架で死に、3日目によみがえることを予告していました(マタイ 20:19)。ユダヤ人の妬み、ピラトの優柔不断、自分は悪くないと言い張る者のゆえに、イエスは十字架に架かれ、その罪を背負われました。

<おわりに> イエスは罪人のために死なれたのです。その罪人とはどんな人でしょう。あからさまな悪人でしょうか。正しくあろうと振舞いながら、不安定な自己義にする者も含まれます。イエスを信じる者は、イエスの声に聞き従い、真理に属する者へと変えられます。(H.M.)